いわき農林水産ニュース

平成30年10月号（第164号） 発行 10月25日

ふくしまからはじめよう。
『食』と『ふるさと』新生運動ニュース

今年もおいしい
「天のつぶ」実りました

目次

・【特集】農業体験・交流……p.1

〔各種取組の実績（9～10月）〕……p.3～

〔お知らせ・連載記事〕
・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー…p.7
・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.9
・イベント情報……p.10
・GAP コーナー……p.11
・田んぼの学校⑤～⑦……p.11
・６次化商品紹介……p.12

【特集】農業体験・交流

いわきの秋晴れの下、大学生が農業と地元食材のおいしさを体感！

農山村地域活性化対策の取組として、「日帰りで行く!!いわきの農業体験ツアー」を開催。首都圏の大学生 35 名が、稲刈り体験や地元農家との交流で農業の魅力を体感しました。

１　いわきの農業体験ツアーを開催！

いわき農林事務所では、農山村地域活性化対策の一つとして、平成２５年から昨年まで、首都圏の大学生にいわき市の復興状況等を「見て」もらう「モニターバスツアー」を実施してきました。

実施６年目となる今年度は、「見る」だけでなく「体験・交流」を重視し、１０月１３日（土）に「日帰りで行く!!いわきの農業体験ツアー」を実施しました。農業体験や地元の学生・農業関係者との交流を通じていわきの農業に関心を高めてもらうとともに、都市の若者の農山村に対する意識を調査し、地域にフィードバックすることを目的としています。

当日は、首都圏の 12 大学から 35 名の学生が参加し、また、市内大学からも６名が参加して、地域産業６次化の拠点「ワンダーファーム」（市内四倉町）を舞台に田んぼアート稲刈り体験や地元食材のバーベキューを通じた交流会、GAP 生産施設の見学を行いました。さらに、海岸線道路を移動しながらの復興現場視察、震災展示をしている「いわき・ら・ら・ミュウ」（市内小名浜）視察を実施しました。

ツアーの内容と意識調査の概要は次ページ以降をご覧ください。

◆当日の視察先◆

（いわき市地図）

２　各活動の様子

ワンダーファーム

市川氏は今月のリレーインタビューでご紹介しています。P.7～をチェック！

①田んぼアート稲刈り

「福島田んぼアートプロジェクト」代表の市川英樹氏の指導のもと、「IWAKI FC」のロゴマークが描かれた田んぼで稲刈り体験を行いました。

市内学生も含め参加者同士で協力しながら、稲刈り体験を楽しみました。

牛肉と真剣勝負の草野さん

②地域交流（バーベキュー）

市内の農家や料理人の方をゲストにお呼びして、県産農産物を使用したバーベキューを実施し、交流を深めました。

ゲストは、田んぼアートプロジェクトの市川氏、ワンダーファームの元木寛社長、市内で畜産業を営む草野純一氏、フランス料理店を営む萩春朋シェフです。

萩シェフ特製
“オールいわき”サラダ

「トマト ラブ」の元木社長

③生産施設等見学

ワンダーファーム元木社長の説明のもと、トマトの生産施設を見学し、GAP や６次化の取組等について学びました。ハウスでは、トマトの収穫体験も行いました。

ワンダーファームの「トマトドレッシング」も大好評でした！

四倉～小名浜海岸

久之浜「東舞子橋」
東舞子橋の架け替え工事の視察
（説明：いわき建設事務所）

新舞子「みずほの森」
「企業の森林づくり」でみずほ銀行が植樹した防災緑地の視察
（説明：いわき農林事務所）

「薄磯防災緑地」
（説明：いわき建設事務所）

いわき・ら・ら・ミュウ
復興展示・施設内見学

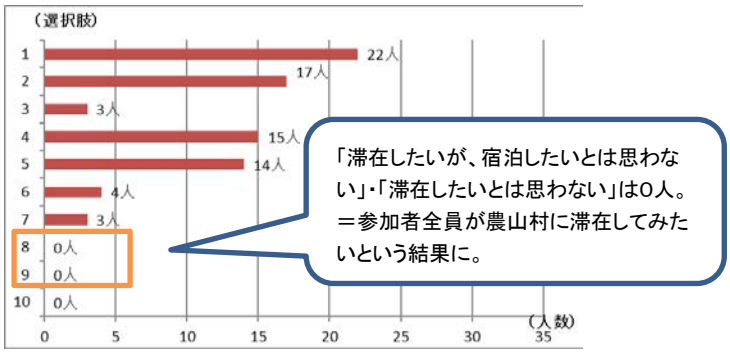
３　アンケート集計結果

今回の参加大学生にアンケートに答えていただき、様々な感想を寄せていただきました。

【今回のツアーの感想（一部抽出）】
・福島・いわきに住んでいたわけではないのに復興というつながりで、いわきに来て、いわきが好きになって、いわきに住んだ人と実際に会えたことがすごく良かった。
・福島に来る度に、また行きたいと思わせられます。現実性があるかは分かりませんが福島に住みたいと思ったことがあります。もし、住めることになれば、雪も少なく日が長いいわきを選びたいと思います。
・泊まりで、もっとふくしまを知りたい！　　・地元食材の BBQ が最高だった。
・あっという間に時間が過ぎました！特に、バーベキューやサラダがおいしく、他の人とも交流できて良かったと思います。いわき・ら・ら・ミュウの展示も、福島の震災のリアルを見たいという思いがあったので、心に残って良かったと思います。
・シェフや（地元）学生、町の人が温かくて楽しかったです！！次年度もやって欲しい。
・稲刈りから始まり、施設の見学や被災地を見たこと等、多様なことに身を投じ経験をさせてもらった。普段、都会でビルに囲まれた中で生活している自分にとっては、すごく刺激的だった。

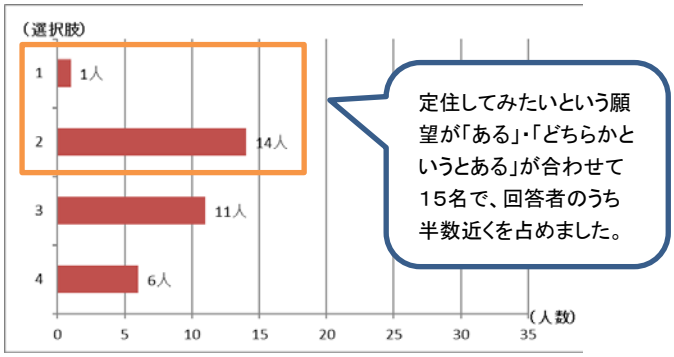
さらに、今後の事業へ活かすため、首都圏の大学生の農山村に対する意識についても調査しました。主な質問項目をご紹介します。

Q. 農村地域に一時滞在する場合、どのような施設に宿泊したいですか？



【選択肢】
1. 農家民宿
2. ペンション・一般の民宿
3. 公共の宿泊施設
4. ホテル・旅館
5. キャンプ場
6. 友人・知人の住居
7. 別荘
8. 滞在したいが、宿泊したいとは思わない
9. 滞在したいとは思わない
10. その他

Q. 農山村地域に定住してみたいという願望がありますか？



【選択肢】
1. ある
2. どちらかというとある
3. どちらかというとない
4. ない

市内では、貝泊コイコイ倶楽部をはじめ、リレーインタビューで紹介した大和田自然農園の大和田智恵子さん、増田笑さん（H30.1 月号）やファーム白石の白石長利さん（H30.8 月号）など、都市部住民との交流に積極的に取り組む方々が増えております。当所においても、未来を担う若者たちの意見を活かし、農林業・農山村の振興に努めてまいります。今回、参加いただいた皆様・関係者の方々のご協力に心から感謝いたします。　（企画部）

第３回「おいしい　ふくしま　いただきます！」キャンペーン〔１０月６日（土）〕

消費者へ県産農産物の安全性やおいしさをＰＲするため、相双農林事務所とともに、「いわき大交流フェスタ 2018」※会場内（２１世紀の森公園屋内多目的広場）でキャンペーンを実施しました。浜通り地方の復興の様子やＧＡＰに関するパネルを掲示し、県産農林水産物に関するアンケートの協力者に「ＪＧＡＰ認証マーク付きいわき市産ミニトマト」、復興等に関するクイズ回答者に「南相馬市産タマネギ」をプレゼントし、「浜通り」の復興状況を紹介しながら県産農林水産物の安全性をＰＲしました。なお、アンケート調査の結果、県産農林水産物の購入意欲に関して「購入したい」が全体の約９５％を占め、ＧＡＰの取組については「知っている」が約４４％を占めました。（企画部）

（キャンペーンの様子）

JGAP 認証マーク付き
ミニトマト

※このイベントは、避難者・被災者及び地元住民と被災者支援団体等が様々な体験を通して、交流を深めるとともに、いわき地域の明るい未来を創造する目的で開催されています。今回は約５千人の方々が来場され、ステージでは双葉郡町村、いわき市、県のマスコットキャラクターや吉本の芸人さんのトークショー、各ブースでは食、スポーツ、伝統文化などを通して交流を楽しみました。

各自治体のキャラクター勢揃い！

市内２箇所で食育活動実施　〔１０月５日（金）・１０日（水）〕

市内の幼稚園１箇所、小学校１箇所で「ふくしま食育実践サポーター」による食育活動が行われました。

１０月５日には、さかえ幼稚園で、在園児の保護者約100名を対象に、高萩多香野氏による「食に関する講話（食が子どもの成長に与える影響）」が実施され、朝ごはんの大切さ、好き嫌いとの付き合い方、バランスの良い食事、おやつとの取り入れ方などについて話をいただきました。

（さかえ幼稚園）
オレンジジュースと牛乳に含まれるカルシウムの量の違いを、赤い紙の長さで比較！

１０日には、平第一小学校で、中村寛子氏による「子どもと楽しく作れる料理の紹介及び調理実習」が実施されました。児童保護者２４名と一緒にお豆腐ハンバーグ・季節のサラダ・甘糀のフルーツマリネ等を作りました。食が子どもに与える影響についての説明もあり、親子での調理やよく噛む習慣の大切さと、それを家庭で上手に取り入れる方法も学びました。また、参加者には、家庭での食育実践につながるよう、食生活改善に関する資料も配付されました。（企画部）

（平第一小学校）
食が子どもに与える影響の説明

いわき地方りんどう新規栽培希望者説明会を開催　〔9月11日（火）〕

りんどう新規栽培希望者を募って説明会を開催しました。

当日は３戸５名の方にご参加いただき、川前活性化センター及びりんどう栽培ほ場において栽培や経営に関する説明をしました。

今回はいわき市やJA福島さくらいわき地区本部の協力を受け、各種補助事業の説明なども行いました。また、川前リンドウ生産部会員のほ場をお借りして、これまでの栽培に関する経験談や、経営収支などの話を聞かせていただきました。

（現地ほ場での説明）

参加者は初めて見るりんどう畑に興味津々な様子で、次々に質問を投げかけていました。

今後もこのような形でりんどう産地づくりの様子を発信してまいります。水稲からの品目転換等をお考えの方、山間部での営農改善をお考えの方は、是非一度導入をご検討ください。

（農業振興普及部）

ほ場整備事業「大久地区」で権利者会議を開催　〔10月2日（火）〕

ほ場整備（農地の区画整理）事業の大久地区は、平成19年度に事業を開始し、約80haの農地の区画整理を行ってきました。この事業では、事業に参加した農家が所有する農地の権利を、整備後の区画形状に合わせて再編する「換地」という手続きを行います。この換地計画について、事業に参加した農家の皆様の承認を得ることを目的とした「権利者会議」が大久公民館で開催され、計画に対して賛成多数で承認を得ました。

（権利者会議における事務局説明）

この手続きを終了したことにより、今年度の大久地区の事業が完了に向けて大きく前進しました。整備された農地を有効に活用していただき、市北部地域の農業が発展していくことを願っています。

（農村整備部）

いわき市植樹祭開催　〔9月29日（土）〕

第４６回いわき市植樹祭（主催：いわき市・市緑化推進委員会）が、市内川前町上桶売の「いわきの里鬼ヶ城」※1で開催されました。

いわき市植樹祭は、東日本大震災で中断していましたが、復興の歩みを発信し、森林を守り育て、次世代に継承することを目的に、平成２８年に再開しています。

当日は、林業・漁業関係者※2らと市民約140人が参加し、210本のツツジの苗木を丁寧に植えていました。

（鬼ヶ城でツツジを植樹）

（森林林業部）

※1　標高600mにある自然あふれる高原の公共宿舎。季節によって紅葉や桜も楽しめます。
※2　豊かな森は豊かな海を作ることから、漁業者の森づくり活動が全国的に行われています。

道の駅「よつくら港」よかっぺ市感謝祭　〔9月29日（土）～30（日）〕

道の駅「よつくら港」で毎月恒例となっている「よかっぺ市感謝祭」に、いわき市漁協四倉支所のホッキ組合が参加し、ホッキむき体験・試食、直売を行いました。あわせて、本県のホッキ漁業が資源管理等、環境にやさしい漁業として認証を受けた水産エコラベル「マリン・エコラベル・ジャパン」のＰＲを行いました。当日は台風が近づき、時折雨が降る天気にもかわらず、多くの方が来場しました。

ホッキむき体験　初めての方には漁師さんが丁寧にお教えします！

ホッキむき体験のコーナーでは、食べることは好きなものの、活きた貝をむくことには尻込みする人もおりましたが、漁業者や漁協職員がそばに付き添っての丁寧な教え方で、各自無事にむくことができ、その場で焼いて試食しました。参加者からは、「甘くておいしい」、「とてもやわらかい」など満足げな声も多く聞かれました。

（自分でむいたホッキのお味は？！）

ホッキむき体験の参加者の中には、自宅へのおみやげ用にホッキを買って帰る方も多数おり、消費拡大に一役買ったのではないかと思います。今後もこのようなイベントを通じて、地元のホッキ貝をはじめ魚介類のおいしさや漁業者の取組をＰＲしてまいります。　（水産事務所）

小名浜港のサンマ初水揚げ　〔9月26日（水）〕

秋の味覚の代表のひとつであるサンマの初水揚げが、９月26日に小名浜港で行われました。水揚げしたのは宮城県のサンマ棒受け網漁船で、9月23日と24日に北海道・根室沖等で漁獲した約108トンが水揚げされました。昨年の小名浜港での初水揚げと比べて３週間ほど早かったですが、中型のサンマが中心であり、脂の乗りも良好で、１キロあたり 201～255円で取引されました。

お待たせしました。サンマの初水揚げ！

昨年のサンマ漁は記録的な不漁となりましたが、水産庁の平成30年度のサンマ長期漁海況予報によると、９月中旬以降はサンマの来遊量が増加して、来遊量は昨年を上回るとの見通しです。今後、サンマの漁場は三陸沖、常磐沖と南下していき、水揚げは本格化してきます。

（水産事務所）

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.10

「田んぼアート」で楽しく面白く、いわきに人を集めます！

福島田んぼアートプロジェクト　市川英樹さん

前回取材にご協力いただいた草野さんから紹介のあった、四倉町で活動中の「福島田んぼアートプロジェクト」代表、市川英樹さんにインタビューしました！

観て、体験して、食べて楽しい「田んぼアート」！

インタビューにご協力いただいた
市川英樹さん（47）

市川さん：私は、いわきを盛り上げるため、四倉町で「田んぼアート」に取り組んでいます。田んぼを一つのキャンパスとして、赤、白、緑、紫色の苗を植える巨大アートを昨年から始め、田植えや稲刈り体験、収穫祭など、それぞれの活動時期に参加者を募集しています。毎回、全国各地から約 100 名の方が足を運んでくださり、中には海外からの参加者もいらっしゃいます。10 月 13 日には、いわき農林事務所主催の農業体験ツアーでワンダーファームへ来ていた首都圏の学生にも、稲刈り体験を楽しんでいただきました！

きっかけは被災地への関心、決め手は福島の「人の良さ」

市川さん：震災当時、私は愛知県豊田市に住んでいましたが、「原発事故のあった福島で何が起きているかを知りたい」と思い、平成２６年に周囲の反対を押し切って福島原発で働くことを決意しました。いわき市に移住し、原発で働きながら、もう一つの収入源として野菜の栽培を始めました。初めての農業でしたが、地域の方がいろいろと教えてくださったり、農作業機械を貸してくださったり、とても親切にしていただきました。結局、トータル２年間近く原発で働き、その間に地域の方々と関わっているうちに、福島県が気に入ってそのまま定住しました。

「出会い」と「チャンス」に恵まれて

市川さん：福島県に来てから、県内の様々な体験型イベントに参加するようになりました。ある田んぼアートイベントで、その楽しさに感動したのをきっかけに、私も田んぼアートで人を呼び、いわきを盛り上げたいと思い、昨年「福島田んぼアートプロジェクト」を立ち上げました。

いわき FC のいわきの復興を後押しする理念に
共感し、ロゴマークをアートに採用しています。

こうして田んぼアートが実現し、毎回多くの参加者に来ていただけているのは、福島に来てから素晴らしい「出会い」と「チャンス」に恵まれたからです。たまたま、近くに農業を教えてくれる方がいて、たまたま、先進的に田んぼアートに取り組む方に出会って、「田んぼアートをやりたい！」と思ったタイミングで四倉町にワンダーファームがオープンし、全面的に協力していただいて･･･。皆様には本当に感謝です！

目指せ、田んぼアートで30万人！

東京オリンピックまでに、田んぼアートで福島県に30 万人を集めるのが目標です！多くの人に来てもらうには、一生懸命発信することはもちろんですが、私は「面白いこと」がとても大切だと思っています。私は「農家」ではありませんが、だからこそ、一生懸命に農産物を生産する農家の方々が普段なかなかできないような取組で、農業の魅力を発信し、もっとたくさんの人を笑顔にしたい。いわきに来て「農作業を体験した」「地元の人と交流ができた」「面白かった」という経験が、「また来たい」と思ってもらえるきっかけになると思うんです。

これからも、福島に 30 万人を集めるため、面白い企画を考えていきます！

頭に稲を乗せ、「い稲！」のポーズがトレードマーク。
子どもたちや農業体験ツアーの大学生からも大人気でした。

福島田んぼアートプロジェクト

平成２９年から田んぼアートに取り組み、２年目となる今年はいわき市四倉に加えて楢葉町でも田んぼアートを実施しています。

現在の構成員は、代表の市川さん、ワンダーファームの草野純一さん（９月号で紹介）、「雑穀エキスパート」の西山紀子さんなど５名。加えて、ファーム白石の白石長利さん（８月号で紹介）など 14 名のメンバーも、「サポーター」としてプロジェクトに協力しています。

【お問い合わせ】

◆TEL：090-6570-4698
◆ホームページ：fukushima-tanboart.com
◆facebook：ja-jp.facebook.com/fukushima.tanboart/

★ホームページ★

11 月 18 日（日）12：00～ワンダーファームで「秋の収穫祭」を開催します！参加者受付中ですので、詳しくは HP をご覧ください。

トピック１

三和町中寺区、平成３０年度福島県林業コンクールで福島県木材協同組合連合会長賞を受賞

林業コンクールは、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業の発展を推進するために開催されております。

今回、三和町中寺区が、間伐部門で福島県木材協同組合連合会長賞を受賞し、１０月２０日（土）に表彰されました。

中寺区は、区内共有林の整備を熱心に行っており、受賞の対象となったスギ林では、大径材生産の計画を作り、これまで定期的に３回の間伐を行ってきました。林内は枝打ちや間伐が行われているため健全に成育しており、収穫の時期が待ちどおしいです。（森林林業部）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成３０年９月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成３０年９月の農林畜産物モニタリングでは、検査した１１品目２３検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq／kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表１）のとおりです。また出荷制限状況は（表２）のとおりです。（企画部）

（表１）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

イチジク 1、カボス 1、スダチ 1、ユズ 1、クリ 3、ブドウ（施設）1、菌床しいたけ（施設）4、原木しいたけ（施設）1、菌床ひらたけ（露地）1、牛肉 5、原乳 4

（表２）出荷制限および出荷自粛品目（９月末現在）

制限、自粛	区　分	品　目
出荷制限	山　菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山　菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果　物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は該当生産者６名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成 30 年９月の水産物モニタリング検査では、440 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成 30 年９月には 99.5%となっています。１０月１７日現在の出荷制限等指示魚種は表の７種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ビノスガイ
クロダイ		

平成３０年１０月１７日現在

トピック２

田人中学校、第６９回福島県学校関係緑化コンクールで２年連続で知事賞を受賞！

いわき市立田人中学校が、福島県学校関係緑化コンクールで知事賞を受賞し、１０月２０日（土）に表彰されました。昨年度に続き、２年連続の知事賞受賞となります。

田人中学校は、市内で唯一「学校林」を保有しています。東日本大震災の原発事故の影響で５年間は間伐作業等を中断していましたが、昨年から地元住民と協力して作業を再開しました。地域について学ぶ「たびと学」の一環として、学校林での作業が行われています。

普段自然豊かな地域に住んでいても、実際に自然に触れる機会は減っているので、森に入り、ありのままの自然を見て、聞いて、触れることは生徒たちにとって大きな経験となるでしょう。（森林林業部）

（田人中学校の皆さん）

イベント情報

いわき野菜マルシェ

■日　時：平成３０年１１月３日（土）10：00～16：00
　　１１月４日（日）10：00～16：00
■場　所：小名浜港アクアマリンパーク
■主　催：いわき市

いわき産農産物や加工品、料理やスイーツが味わえる「いわき野菜マルシェ」が開催されます！いわき野菜のスープを飲んでクイズに答える「いわきの野菜をみつけて!!クイズ大会」など、楽しい企画も盛りだくさん！是非、お越しください。

「ふくしま　おさかなフェスティバル　in　いわき」

■日　時：平成３０年１１月１８日（日）10：00～15：00
■場　所：小名浜魚市場
■主　催：福島県

県内４ヵ所で開催中のおさかなフェスティバル、１１月はいわきで開催です！サンマのつかみ取り、漁協女性部の地魚料理ふるまい、ヒラメ等稚魚の放流体験、調査船「いわき丸」見学など盛りだくさんの企画で皆様のご来場をお待ちしています。ふくしまの漁業を“見て・触れて・食べて”学んで、地域を盛り上げましょう！

トピック３

いわき農林事務所で発注した工事が、優良工事に選ばれました！

県が発表した「平成 30 年福島県優良農林水産土木工事」の表彰式が９月６日（木）に行われ、当所が発注した下記の工事が優良工事として表彰されました。

当工事は、縦断的・横断的にカーブしている農道の法面保護工事であり、法面からの湧水が多い等、現場条件・施工条件ともに難易度の高い工事であり、現場条件に応じた柔軟な対応等が高く評価されました。　（農村整備部）

工事名	[復興]基幹農道整備 2901 工事 釜ノ前３期地区
工事内容	法面保護工　A=2，129.3m２
請負者	株式会社　山一緑化土木

GAP コーナー　GAP（Good Agricultural Practice）：「農業生産工程管理」

FGAP 認証書交付式が行われました

ふくしま県ＧＡＰ（ＦＧＡＰ）の認証書交付式が、９月27日（木）福島さくら農業協同組合いわき地区本部で行われました。今回認証を受けたのは「福島さくら農業協同組合いわきいちご部会高設栽培研究会」で、ＦＧＡＰとしては初の団体認証となります。交付式では、当所の家久来所長から根本会長に認証書が手渡されました。

（前列：高設栽培研究会の皆さん）

同研究会では、4件の生産者が、昨年から指導会や書類整備、農場の整理整頓など、認証の準備を進めてきました。点検項目は100以上に及ぶため、やるべき作業が多く、手間も必要でしたが、ＪＡの協力もあって、無事認証を取得することができました。

根本会長からは「今後も周辺環境や労働環境に配慮にしながら、いちご栽培を続けたい」との話がありました。研究会の皆様には、今回の認証を機に、栽培技術や経営内容をさらにステップアップするとともに、今後も「いわきいちご」のブランドをアピールする先頭に立っていただければと思います。

（農業振興普及部）

田んぼの学校　第５～７回

マコモダケの収穫・実食体験を実施しました！

１０月４日（木）・５日（金）・６日（土）

１０月４日（木）、いわき市立菊田小学校５年生児童 79 人がマコモダケの収穫を行いました！

児童達は、最初に地元応援団の方から収穫方法の説明を受け、クラスごとにチームに分かれ、根元が大きくなり収穫可能となったマコモダケを見極めながら、収穫を行いました。約 250 本もの大量のマコモダケを収穫することができ、児童たちは大満足していました。

翌日にはマコモダケの実食体験を行いました。山田公民館、婦人会の皆様にマコモダケご飯、マコモダケの素揚げ、マコモダケゼリーを作っていただき、５年生児童達がそのマコモダケの料理を実食しました。自分たちで育て、収穫したマコモダケを、児童達はとてもおいしそうに食べていました。

また、マコモダケの一部は、10月6日（土）に小学校のバザーに出品され、すぐに完売するほど大好評でした！　（農村整備部）

こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の６次化商品をご紹介します！

泉町の「たまごの郷」では、市内自社農場の産みたて新鮮卵「いわき地養卵」をたっぷり使った、様々なお菓子を販売しています。人気NO.1の「えっぐぷりん」は、濃厚且つとろけるような食感で、卵そのものの美味しさを感じていただける贅沢なプリンです。頬張ると優しい味わいのクリームが口いっぱいに広がる「いわき地養卵たっぷりシュー」は、サクサクのシュー皮と、バニラの香りが控えめで、卵の味が際立つクリームが特徴のシュークリームです。その他、ふんわりとした食感で味わい深い生地の「郷のロールケーキ」も人気です。卵の味に自信があるからこそできる、こだわりの味を是非お召し上がりください。

お問い合わせ
いわき市泉町滝尻字南坪27-1　TEL.0246-84-9430
FAX.0246-84-9431　定休日：毎週水曜日
HP：http://www.tamagonosato.com/

店内にはイートインコーナーがあります！

えっぐプリン
●販売価格/200円(税込)
たまご形のかわいい容器で、お土産にもおすすめです。

いわき地養卵たっぷりシュー
●販売価格/150円(税込)
サクサクのシュー皮といわき地養卵を使ったまろやかなカスタードクリームがベストマッチです。

郷のロールケーキ（プレーン）
●販売価格/カット:170円(税込)・1本:780円(税込)
プレーンの他、季節ごとに旬の果物を用いた様々な味が登場しますので、お楽しみに！

編　集　後　記

「日帰りで行く!!いわきの農業体験ツアー」、無事終了しました！皆さん朝早くから集合して東京からいわきまで来ていただき、どろんこになりながら全力で稲刈りを楽しんでいただきました。写真を撮りながら学生の何名かとお話しする中で、「楽しんでますか？」と聞くと、皆さん揃って「めっちゃ楽しいです！」と笑顔を見せてくれました。

私たちが想像している以上に、土を触ったり、自然の中で作業したりするのは首都圏の学生にとって新鮮で、とても楽しい体験だと分かりました。これからも農山村地域の活性化のために、当所としてできることを考えていきたいと思います。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
（県いわき合同庁舎 3階）
ＴＥＬ (0246)24-6152　ＦＡＸ(0246)24-6196
ＵＲＬ http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

いわき農林水産ニュース 検索